

2020 年東京オリンピック・パラリンピック大会 に向けた京都からの日本文化の発信について

【担当省庁】文部科学省、文化庁

- 1 「京都文化フェア(仮称)2016-2020」の取組を、文化庁の「文化力プロジェクト(仮称)」のリーディングプロジェクト等に位置づけるとともに、「地域における文化施策推進体制の構築を促進する取組」の予算を確保し、採択していただきたい。
- 2 平成 28 年 10 月に京都と東京で開催の「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」において、必要な財源を確保するとともに、京都府からの提案を踏まえたプログラムにしていきたい。
< 京都府からの提案 >
 - ・東京で連携して開催される世界経済フォーラム関係者等の京都への招致
 - ・京都における文化担当大臣会合の開催
 - ・京都文化を象徴する寺院・神社や京都文化博物館での事業や京都ならではの文化イベントの実施
- 3 「国立デザイン工芸美術館(仮称)」を京都に設置していただきたい。

< 文部科学省・文化庁の概算要求 >

- ・文化芸術立国実現に向けた文化プログラムの推進 177 億円
(27 年度予算額 127 億円)
 - (1) リーディングプロジェクトの推進 13 億円(新規)
 - (2) 国が地方自治体、民間とタイアップした取組の推進 148 億円
 - 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業 32 億円
 - 地域における文化施策推進体制の構築を促進する取組：7 事業(新規)
 - 専門性を有する組織を活用した文化芸術政策の企画立案・遂行、地域の文化芸術活動への助成、調査研究等を実施する体制の構築を促進する取組への支援や、「文化力プロジェクト(仮称)」の認定・統括を行うコミッショナーの配置、「文化芸術アソシエイツ(仮称)」の活用を促進する取組
 - (3) 文化プログラム推進のための基盤整備 24 億円
事業内訳には再掲を含む
- ・スポーツ・文化・ワールド・フォーラムの開催 8 億円(新規)

【現状・課題等】

- 1 文化庁が取り組む文化プログラムを「文化力プロジェクト（仮称）」として推進するとともに、地方公共団体等が「文化力プロジェクト（仮称）」を認定することを検討

2020 年文化プログラムの具体化を見据えた推進体制（京都府）

千玄室氏（茶道裏千家前家元）をはじめとする 5 名の文化人の呼びかけを受け、平成 26 年 10 月 6 日にオール京都の推進委員会を立ち上げ、平成 27 年 9 月に基本構想中間案を発表、今冬に基本構想を策定予定

<p>委員長：長尾 真 元京都大学総長</p> <p>副委員長：山田知事、門川京都市長、立石 義雄 商工会議所連合会長</p> <p>ワーキング座長：佐々木 丞平 京都国立博物館長</p> <p>委員：文化・観光・学術関係の有識者 30 名</p> <p>目的：基本構想策定等</p>	<p>スケジュール</p> <p>平成 27 年度 9 月 基本構想中間案公表</p> <p>冬 基本構想の策定</p> <p>3 月 実行委員会設立</p>
--	---

また京都府では、日常生活における文化芸術の役割の発展と文化芸術による地域振興を図るため、府内全域において地域のリサーチを踏まえたアーティスト・イン・レジデンスの実施及び芸術祭の開催を計画している。

- 2 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスタースゲームズ 2021 等に向けて、スポーツや文化による国際貢献や有形・無形のレガシー等について、議論、情報発信し、国際的な気運を高めるためのキックオフイベントとしての国際会議を開催

開催時期 （京都）平成 28 年 10 月 19 日～20 日（ロームシアター京都 等）
（東京） 10 月 20 日～22 日（六本木ヒルズ 等）

内容(案) 開会式・基調講演、国際会議、官民ワークショップ、文化イベント

- 3 京都には、伝統的な意匠やデザインがあり、有形・無形の国宝等が蓄積されていることから、これらを後世に残し、さらに発展させるために「国立デザイン工芸美術館（仮称）」を京都に設置していただくことが必要である。

国立デザイン工芸美術館（仮称）

日本におけるデザインの重要性や、ヨーロッパのモダンデザインの源にもなった日本のデザインの「歴史」、建築やプロダクト、ファッションなど様々な分野でのデザインの紹介など、日本のデザインとものづくりの魅力と意義を伝えることを目的とした施設

「国立デザイン美術館」設立趣意書

日本にはすばらしいデザインの歴史と今があります。
ヨーロッパのモダンデザインの源にもなった「歴史」。
そして、建築、プロダクト、グラフィック、ファッションなど、
世界を魅了するさまざまなデザインの「今」。
デザインは、私たちの暮らしを整え、楽しみや喜び、
安心と心地よさを与えてくれるだけでなく、産業や経済を活性化し、
生活の豊かさをもたらしてもくれます。
こうした日本のデザインを集大成し、その魅力と意義を伝え、
未来の創造力を確かなものにする「国立デザイン美術館」を
今こそつくりましょう。

- 第一に、日本が誇る伝統と技術を再確認し、
我が国に自信と活気をもたらすために。
- 第二に、日本を訪れる海外からの人々に
「これが日本文化の最前線、そして底力だ」と呈示するために。
- 第三に、すぐれたデザインを継続してアーカイヴし、日本の財産とし、
次世代に継承するために。
- 第四に、諸外国のデザインミュージアムと連携して
人類の創造力をさらに高めるために。

現在の日本が持てるデザイン力と技術力を尽くして、
新しい美術館像を創り出しましょう。

ときめき、いのちの鼓動、未来への勇気、
限りないやさしさ、愛することへの執着。

「国立デザイン美術館」を満たすさまざまなデザインは、
私たちにそんな驚きと喜びをかならず届けてくれます。

国立デザイン美術館をつくる会
三宅一生 青柳正規

(出典 : 「国立デザイン美術館をつくる会」HP)

【京都府の担当課】

文化スポーツ部	文化政策課	075-414-4217
	文化芸術振興課	075-414-4219
	文化交流事業課	075-414-4279